

はらっぱを中心に多世代が集う「まちのリビング」

兵庫県の中央にある雄大な山並みや観光資源に恵まれた神河町。祭りや盛んな地域活動を支える「はらっぱ」を中心に多様な庭を整備し、生野銀山と飾磨港を結ぶ日本遺産“銀の馬車道”と、主要幹線道路を結ぶように主園路を設けることで、多世代が集う「まちのリビング」を目指した。

地域活動者や子育て世代とのワークショップ、学校・病院・図書関係者へのヒアリング、中高生へのアンケートを行った中で、鮎や蛭に代表される身近な自然環境とは趣の異なる、新しい公園に対する期待の高さが伺えた。訪れた人が気分に合わせて過ごせるように、多世代が楽しめる庭やウォーキングコース、その活動を見守る道空間（「えんがわ」・「本のみち」）を設定し、動きの中で風景が変化する多様な居場所を創出している。

国道と銀の馬車道をつなぎ、ゆったりめぐる回遊性

敷地西側の国道と東側の「銀の馬車道」をつなぐ園路を設け、はらっぱを中心に多様な庭をゆったりめぐる回遊性の高い計画とした。公園の玄関口には、園路に沿って伸びやかな屋根を架け、町産材に包まれた気軽に立ち寄りやすい図書コミュニティ施設を構築した。



雄大な山並み・歴史的なまち並みに調和する「新しい風景」

「銀の馬車道」のまち並みと調和するよう、建物を分節し、軒高を抑え、勾配屋根の重なりで深い陰影を創出した。国道に対しては、互い違いの屋根によってリズムカルな表情を創り、ガラススクリーンを通して賑わいや灯りが感じられる開放的な設えとした。



「銀の馬車道」のまち並み



はらっぱと一体となる、心地よい空間

はらっぱを眺めながら寛げる「本のみち」

- ・図書コミュニティ施設には、回遊する園路に沿って「本のみち」を計画し、カフェや閲覧室を併設することで、子どもたちを見守りながら、思い思いに過ごせる居場所を創出した。
- ・南北面にガラススクリーンを配した扇状の平面とすることで、「はらっぱ」への見通しを最大限に確保している。

静かさ・賑やかさに配慮したゾーニング

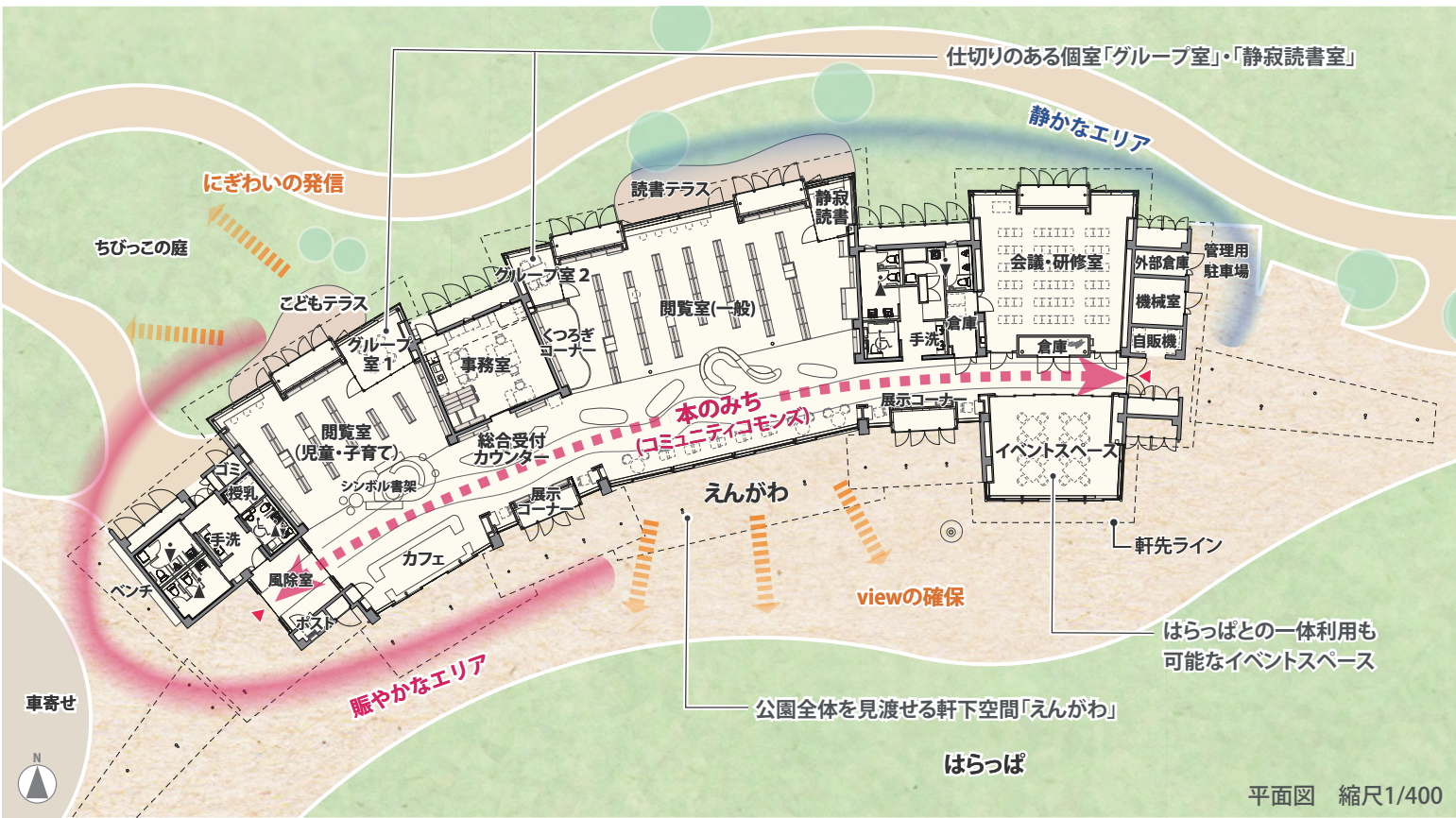
- ・賑やかなエリアと静かなエリアに適度な距離を保つことで、一つ屋根の下に緩やかな音環境を形成する。
- ・静かに読書をしたい人や視線が気になる人にも配慮し、仕切のある個室や座席を計画した。

いつも新しい発見がある軒下空間

- ・南側には深い軒庇を設け、はらっぱと一体的に利用できる「えんがわ」を形成した。
- ・天気に左右されず、夕涼みやマルシェ、キッチンカー、はらっぱのイベントを眺める観客席など、多目的に利用できる。



建物を貫く「本のみち」から、「えんがわ」と「はらっぱ」を見る。天井材・書架・家具のすべてを町産材としている。床には「銀の馬車道」をイメージした真鍮の轍が打ち込まれている。





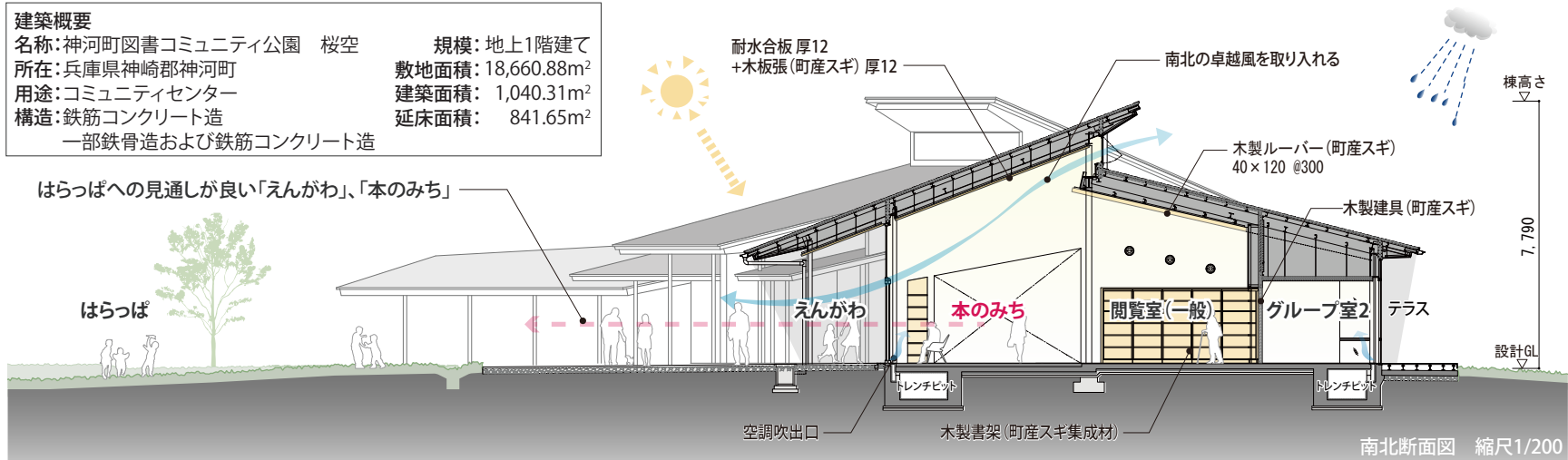
勾配屋根がつくる、地域・環境にやさしい断面

気候・地域に寄り添う屋根形状

- ・年間1,700mmの降雨に耐える単純な勾配屋根とし、互い違いに重ねることで、南北の卓越風を取り込む形態としている。
- ・東西開口面積の抑制、ハイサイドライトからの自然採光、軒高抑制によって、冷暖房エネルギーを低減し、特に、奥行きのある軒庇により、夏季は窓面からの日射侵入を、冬季は窓面からの熱損失を大幅に削減した。
- ・高さや勾配の異なる天井面は、町産材の木ルーバーと木天井を使い分け、室内環境を適度に調湿しながら、天井裏で適切に吸音を行い、快適な読書空間を創出した。

省エネルギーな空気環境の創出

- ・東西に長い閲覧室・本のみちは、ペリメーターに床吹出空調、インテリアに壁吹出空調を採用し、居住域を効率的に空調して、淀みのないような気流を作り出している。



地元の山で採れた木材を集めて、神河町産のインテリアをつくる

市場に流通している地域産材は兵庫県産材に限られていたが、森林組合や木材調達業者に協力を仰ぎ、神河町で伐採された木材を選別してもらうことで、内装の全ての木部を神河町産材で統一した。スギ製材を天井ルーバー・天井板張・鎧張壁・内部木製建具に、スギ集成材と錬付材を書架・家具に活用している。少し赤みのある町の杉が引き立つよう、取合う壁や床の素材にはニュアンスのある落ち着いた色合いを選定し、町民に安らぎと心地よさをもたらす、素朴で温かみのある交流空間を実現した。

